

# 川崎区第3期区民会議第6回子ども部会議事録

日 時：平成24年2月8日（水）13時30分～15時30分

場 所：川崎区役所7階選挙管理委員室

出 席：朴栄子委員、石渡勝朗委員、宮崎とみ子委員、小泉委員、深澤委員

川崎区：上野副区長、企画課金子課長、同勝野係長、同佐々木職員

コンサルタント：中島

傍 聴：なし

議 題：1 第3期川崎区区民会議最終報告書（案）について

2 その他

## 1. 開会

(金子課長)

本日は、お忙しい中お集まり頂き、ありがとうございます。当会議は、公開原則が適用されているので、傍聴について、認めているので、ご了解願いたい。本日の記録、議事録については、市民の方に公開をしているので、録音、写真撮影を行うのでご了解願いたい。本日は、傍聴の方がいらっしゃいますが、お手元の注意事項をご覧のうえ、傍聴いただくようお願い申し上げます。

続いて配布資料の確認をいたします。(※配布資料確認)次第・名簿・資料が1～4です。

本日、副区長が出席するはずでしたが、区長が不在の為に様子をみさせてくれとのことでした。

それでは、議事進行は部会長をお願いしたいと思います。

## 2. 議題

### (1) 第3期川崎区区民会議最終報告書(案)について

(朴部会長)

今日は、報告書の案ということで、これから報告書に目を通されると思いますが、報告書の最後のまとめの部分までいってませんので、これを見ながらまとめのところまでいけたらよいかと思います。

まず、報告書の説明について、事務局からお願いいたします。

(金子課長)

資料1をご覧くださいませるか。(資料説明)

(朴部会長)

報告書の抜粋を元にまとめていくのですが、まず提言について、目を通してもらってもよいですか。5つの課題がありました。

(小泉委員)

地域との交流ということは、単発的には1回、2回はできるのですが、これを継続的にやるためには、子育て中のお母さんとお子さんと交流をしかけるボランティアを探すのは大変です。この前、子育てサロンで試に1回やってみましたが、実は、新年になってから老人の会食会をやらしてもらえませんかとお願ひしたら、ボランティアをやる人が集まってきました。

(宮崎委員)

初めて、ひとつのものに依存させてもらうような形。双方の話がうまくいって、それでひとつが成り立っていくので、時間が足りない。毎日それをやるわけではなくて、年間のうち何回かやる内に一緒に混ざっていくには、時間を要します。町会町会といわないで、一歩外に出て、保育園や幼稚園等とのいろんな係り方も良いのかなと思いました。

(朴部会長)

小泉委員が言われたようにすぐいいものは、出来上がっていかない。とりあえず始めて頂くためにお願いだから1年に1回は、子育て中のお母さんと皆さんが出会う場所づくりをしていきましょう。どこの団体というよりもやれる団体にやって頂くのが一番だと思います。その情報がほしい。

(金子課長)

これだけ良かったよというものがあれば、それを発信して、他のところでも対応が出来る仕組み。地域振興なのか、子育て支援なのか、難しい。保育園の関係は、子ども支援室が所管しているので、保育園が何かやれば、情報は入ってきます。

(宮崎委員)

地域での会食をやっているのは分かっているのですが、学校でのイベントで保育園のお友達が、イベントにみえた時の会話の部分で、それを主催した婦人部の部長さんがおいでになったので、その人からの情報だった。

(金子課長)

色んな所で、そういう交流はしている。いいものは、他にも発信していきたい。

(朴部会長)

そういう所では、情報を集める場所が1つ必要だと思います。世代間交流をお願いします。世代間交流をやっている所は、こんなことやっていますよということを集約してそれを区民にお知らせするようなシステムが一つ作れていくといいと思います。

(宮崎委員)

地域にまちづくりクラブみたいなのがあります。小田公園の野球場が、ここ数年は、各地域の町会長さんが主になって、当番制で動いてきた。地域じゃなくて、町会にやらせるのではなくて、野球場の開放が未就学児童とその親に毎週木曜日9:00~12:00までされていて、実際使っているのが、保育園のお友達。保育園のお友達だけでなく地域のお母様方も一緒にどうぞという形ですが、地域のお母さん達は、知りえない。せっかくやっても中々季節的に園が来ない時があって、鍵を開けて待っていてもどなたも来なくて鍵を閉める状況が発生している。月4回やっていたのを隔週にしましょうとかという話がでてます。それが隔週になったとしてもそれをやっていますという広報がまだまだ、知り得ていない状況。芝生がある野球場が開放されているのに開放しているということを知らない方が沢山いらっしゃるというのが、交流が出来る場所になっているので、今後、継続的に入ってきますので、そういう場所での交流も実際やってます。今は、8町会の町会長が鍵を持って、開けて待っていてくださっています。

(金子課長)

あちこちで、世代間交流の区政だよりを配る。特集を組むのもいいかと思います。ここでは、こんな世代間交流のプログラムがありますという発信をする。

(宮崎委員)

情報提供をまちづくりクラブ独自でもしていった方がいいのではないかと思います。

(小泉委員)

民生委員の子育てサロンだって、一つの町会の中を使っているだけで、もっと開放して子育てサロンではなくて、野球場を使ってでもいいんだよね。

(宮崎委員)

その日は、そういうイベントをやっても良いと思います。

(金子課長)

お正月のお楽しみ会は、どこかの保育園が地域開放をしているのに合わせて、今日の地域開放は保育園でやりますとアナウンスをしていた。保育園の園児と共に近隣のお母さん達が、保育園で遊ぶ、一緒のお楽しみ会をした。

(宮崎委員)

あれも良い意味のひろがりの場所です。

(金子課長)

大きなイベントは紹介できるのですが、定例的にやっているのが、段々形骸化してきてしまう。

(宮崎委員)

ある程度やっている地域の主たるところが、うまく公募できる形に掲示板に貼るとか、この冬はちょっとだめでも季節的に活動しやすい時期になれば、そういう場所の情報提供をしたらどうか。

(朴部会長)

やってくださいとお願いすることとやるにあたっての広報が必要だと思います。地域でイベントをやっていると広報力に欠けてしまう。保健福祉センターでは、1年に1回子育てグループの情報が載ったものが出ます。それをこども文化センターに置いておいて、お母さん達がそれを見ながら行かれたりする。

(深澤委員)

個々でやっているようなものが集められて、それを広報するといった時に市政だよりもいい手だと思いますが、保健福祉センターでやっている、子育ての輪で定期的に出している「かわらばん」。ママさんたちが記事を書いて、自分達で編集している。印刷だけ、保健福祉センターでやってもらって出している。そこに特集を組んでもらって、各地区でこんなことをやっていますよと出してもらった方がターゲットに渡りやすいと思います。

(朴部会長)

情報を集めるところが必要なのと、そこ1つで広報「かわらばん」やHPもあるのでお願いをして、イベントがある場合は、いついつまでに連絡下さいとあって、かわらばん等でお知らせをしていく。企画してもだれも来なかったら、次が続かないですよね。そこを支援していく意味でも広報は、役所の力を貸して頂きたいと思います。

(石渡委員)

宮崎委員のお話は、素晴らしいことだと思います。これが、さらに発展すればいろんな所で。現実的な部分のPRで、多くの親と子どもが参加してくれる場所になると同時に一番最初のきっかけを他の地区の人達は、知りたいと思います。小田の町内会長さんがなんで、公園管理になったのでしょうか。それをもっていく為には、どういう苦心があったのか知りたいですね。

(宮崎委員)

まちづくりクラブの方で、スタートは、その方が主たるところで、ご自分が毎回公園の鍵を開けていた。スタートラインのお話は、振興課がきちんと入られてではないですか。

(石渡委員)

最初の苦労話を各地区に伝えてほしい。それに各地区の方が感動して、うちでもやってみたいとか。大師公園でやった時もあるのですが、きっかけというか、突破口が見つからないとそうならない。

(金子課長)

ただ単に開放しろというのは、難しいのだけれど、さっきおっしゃったように私達が管理します、ぜひやらせてくださいと地域が地域でなんとかしようという心意気が強いと思います。

(石渡委員)

そういう機運を盛り上げていく、提言も聞きたいと思いました。

(金子課長)

ここは、市民自治で自分達のまちを楽しく・安心して暮らせるために野球場を開放して、小さい子どもさんを遊ばせたいと動いているのだと思います。ただ単に鍵を開けてその鍵の管理を役所でやると言われてもそれに又、人をつけないといけないとか、いろんなハードルがあって、あえて予算をつけてまでやるかという難しい。地域の方が鍵を預かって、管理する。

(宮崎委員)

鍵を預かったのが、山田さんが一番最初だったと思います。それを町会でということになり、8町会が鍵をつくって、町会長の責任の元に鍵を預かるようになった。

(金子課長)

それは、個人ではだめだったと思います。

(宮崎委員)

団体の力だと思います。

(石渡委員)

1年を通じて開放をするのですか。毎週木曜日に。

(朴部会長)

こういう情報は、知っている人しか知らないものですね。

(金子課長)

発信はしていますが、地域の方で運営されているので、違うところから来て、わざわざ遊びはしない。

(宮崎委員)

同じ地域にいても知らない人は知らない。スタートは、保育園の方に投げかけて保育園のお友達が園児を連れてきて、遊びに来ていた。

(金子課長)

せっかく開放するのだから、声掛けをしたのだと思います。

(朴部会長)

各地域で、いろんなことをやっていますが、皆知らないです。

(宮崎委員)

大師の方もやられる方が沢山いらっしゃるのです。

(石渡委員)

どういう形で広げていくかという視点はない。

(宮崎委員)

せっかくいいものを行っているのに、大きな輪に広がっていかない。

(小泉委員)

小田の野球場を開放していてもそこに来る人は、小田を中心としたエリアなので、大師から来るわけではない。大師でやっても、小田の小さな子に来るわけではない。

(宮崎委員)

その地域だけでも沢山の方がおられるはずだけれど、情報を知らない方も沢山いる。

(石渡委員)

その話が、大師地区に流れてくれば、大師の人達も刺激されて、やってみたくなるかもしれない。

(宮崎委員)

まちづくりクラブの会合なんかでお話されているのではないかと思います。

(朴部会長)

川崎区内の子育て交流イベントみたいな地域で開放していますよとか、うちの町内でこんなことやっていますよとか、今回の会食会はとかが分かるようなものがあって、他地区の人もこの地域でこんなことやっていたよとか、どうやってやっているんだろうねとか、関心のある人は、連絡してみようかなとか。

(金子課長)

「かわらばん」というのは、どんな記事なのですか。

(深澤委員)

乳幼児をもっているお母さんが集まって、座談会をしている。自分達が実際知りたい情報を知っている人が、書くよとって、記事にしてくれてそれを載せる形です。あとは、イベントがあると、イベントの日程とかお知らせを載せてまとめた4~5ページぐらいの冊子を支援センターとか、区役所の方にも置かせてもらっています。

(金子課長)

中味は、全部ママさんたちが決めているのですか。

(深澤委員)

飛行機に乗った経験とか、0歳で飛行機に乗ってこんな感じだったよとか、トイレトレーニングは、こんな風にしましたよとかといった体験談とかを書ける人が書く。

(金子課長)

まちづくりクラブのこんなのに参加したらとかも載りますか。

(深澤委員)

頼めば参加してくれるくらい、積極的な人達を中心なので。

(朴部会長)

こちらから、町内会で今度こんなことがあるので、これを載せてといったら、これを載せてくれますか

(深澤委員)

発行が年4回あればいいほうなので、タイミングが合わないと日程が過ぎてしまうとかあります。今回みたいに集めて、定例的にやっています小田球場が木曜日に開放されていますとか、定期的に子育てサロンでクリスマス会がありますとかだとまとめて、いっぺんに載せられる。そうすると問い合わせ先が載っていてやっていたら行かれる形で載せられれば。

(金子課長)

ある意味ママたちに取材に行ってもらってしまえばよい。

(深澤委員)

ハローワークが出来た時に今保育付きでお母さん達がハローワークの相談を受けられる。その子育ての輪のお母さんに声がかかって、体験してくださいと言われて、体験談を書いてということをやっていました。取材もしてくれます。

(金子課長)

体験してもらって、記事にして、情報発信をするのは、具体的で良いと思います。

(石渡委員)

問題は、その情報発信する先ですよね。今支援センターとか、公的な部分だけれど、意外と広く行きわたらないから、そういうものを例えば、幼稚園とか、保育園とか、部数の関係もあるでしょうが、町内会とかですと、子育て中の親がこんなのあるんだなと思うかもしれません。役所には行かないですよね。

(深澤委員)

検診の時に見れるようには、工夫はしているけれど、なかなか難しい。

(朴部会長)

いろんな施設とか団体とか町内会とか1年に1回でも子育て中の親と一緒に取り組める何かを作ってください、そして、その情報を提供してください。そこで提供された情報は、「かわらばん」のママ達にお願いして、「かわらばん」に載せて頂く。体験談とかを書いていただいて、区民の方々にお知らせをしていく。今ネックなのが、どこが情報を吸い取るかだと思いますが、そこがクリア出来れば、ちょっとずつ前に進んでいけるのかなという気がします。

(金子課長)

地域保健福祉課が絡む感じですか。

(深澤委員)

元々「さんぽみち」から発生しています。

(事務局)

サービス課の方ですね。

(朴部会長)

お願いをしていく側の場合は、どこが。各施設はいいのですが。町内会とか老人憩いの家とかには、どういう風に情報を流していけばいいのか。

(金子課長)

こういうのに関しては、町内会の回覧は、あまり効果がないかもしれません。全世帯の全員に知らせなければいけないのは、そういうものが効果的ですが。子育てに関係ないなと思うのもったいないです。

(朴部会長)

いろいろな所で、世代間交流で子育て中の親との出会いの場を作っていくことをお願いをしていくことでいきましょう。

次の(2)こころの居場所づくり・不登校支援のところ、具体的には、チラシを作ったらどうだろうというお話があり、私の方で、たたき台を作成しました。いかがでしょうか。

(小泉委員)

日本語を母国語としないお子さんに対して、どうサポートしますか。

(金子課長)

保護家庭は、負の連鎖にならないようにきっちり学習させて、きちんと就職させるようなプログラムを目指していきたいという話も出ているので。

(朴部会長)

学習サポートも日本語を話せない子ども達とお金を出して、塾に行けない子ども達をサポートする取組も載せられるといいかなと思います。もう少し、分かりやすくかわいく作られたらどうでしょうか。発達支援センターも載せた方がいいですか。市の場所ですが、区にあります。

(小泉委員)

学習障害というのか、学校で落ち着いていられない。座っていられなくて、立ち上がってしまう。今度学習障害のお子さんの勉強をしようとしていますが、一人一人違うんだらうね。発達障害とひとくくりでいうと漠然としてしまって、難しい問題だと思います。

(深澤委員)

今は、軽度の発達障害といわれている子どものお母さん達の話し合いをする場。同じ悩みを持っているお母さん同志、自分達の悩みを話せる場が保健福祉センターの手助けサークルみたいなものがある。「陽だまりの会」という

のがありますが、そういうのもここに載せるのかどうか。初めた時は、数名だったが、だんだん口コミで広がって、今すぐく人がいっぱいいると聞いています。

(金子課長)

行政の方にそういったご相談をまず、一方してくれるといいと思いますが、なんでもかんでも載せるのがいいのか。親向けなのか、子ども向けなのか。また、子どもからのヘルプの声をどこに載せるのか。

(小泉委員)

今、「陽だまりの会」と一緒に障害者のお母さんの会もありますね。こないだ、川崎市の「知福教」のお母さん方と今までは、子どもを外に出したくなかったがという話し合いの場がありました。それと同時に発達障害の勉強も一緒にしようということになりました。

(朴部会長)

機関に相談するのではなくて、隣近所の方達に自分の子どものことを相談しやすいような、子どもが自分のことを話しやすいような地域にしていくために世代間交流をしていく必要性がある。こういうチラシを出してくださいという提案をいたします。

次に(3)自由に思いきり遊べる場所づくりということで「プレーリーダー」という人達を川崎区にも養成していくことがこれからは必要なのではないかと提案になりました。

(金子課長)

宮前区は、そういう活動をしたいというグループがまずありました。公園を活用するという視点から冒険・遊び場も出てきた。公園を中心とした地域コミュニティの話がでたので、そこから発生したものかなと思います。実際に働きかけをして、養成講座を受講して、この地域でやりましょうという機運がうまれていた。遊びたい子ども達がいる、その子ども達を支援したい大人がいないと。ただ、プレーリーダーを養成しても誰もついてきません。

(朴部会長)

プレイパークをつくらうという意気込みのある地域教育会議。

(金子課長)

そこところが上手くコーディネートしてくれるのであれば、乗っかってくると思います

(朴部会長)

市民自主企画で、宮前区はやっていましたね。

(金子課長)

企画課で募集する「いきいきかわさき区提案事業」で、こういう事業を新たにやりたいんだと手をあげてもらって、審査を経て、OKが出ればやってくださいという提案もあります。区民会議を退任された方達が逆に実行部隊になって

頂くのは、理想だと思います。宮前カルタなんかは、区民会議で話し合っていたことを実際退任された委員さんが作った。区民会議で調査・審議までしか出来ないの、それを実行する部分は、他の団体や地域を活用してやってしまう。その為に調べ物をしている形をとっている。

(石渡委員)

先日の区民交流会に出席しましたが、区民会議というのは、川崎区の場合は提案までですが、実際には、実践している区民会議もありました。他力本願では難しいと思います。

(金子課長)

区民会議の委員だけでやるというよりは、どれだけ地域を巻き込めるかだと思います。ここまで調べてここまでやったから、あとは地域でやりましょうよという機運がほしいと思います。

(朴部会長)

先程の野球場の開放も野球場を開放しているだけだとそこに行く魅力が無い。プレーリーダーを経験された方がそこについて、遊びの展開をされたら地域で遊べてよいかと思います。

(金子課長)

毎回ではなくても、何か月に1回でもリーダーさんがきて、こんな遊びを中心にやるよと旗振りをするといいかもしれないですね。

(朴部会長)

プレーリーダー養成講座を提案します。地域教育会議にいている人にこんなのをやろうとおもっているけれど、どうと声掛けをすれば、動きそうな人たちですよ。

(金子課長)

2月22日に「いきいき川崎区提案事業」の来年度に向けての提案説明会をします。H24年度のものなので、予算が余れば、途中からの参入も考えています。提案事業とはこういうものですよと説明会をします。

(朴部会長)

プレーリーダーを養成をしていって、子どもの遊びの場を広げていくことを提案する。

(小泉委員)

宮前区の手間と弁当は自分持ちというのは、いいですね。

(朴部会長)

次に(4)「健康推進に関する取組」についてですが、健康出前講座で大変良かったという意見が多かったです。この間も桜本中学校の校長先生に会いまして、一生懸命言われました。モデルケースの実施に必要な事業だけれど、地域保健福祉課では次年度以降行うことは難しいということで、続けられる仕組みを考えてみました。

出前講座をしますから先生になりませんかというように市民グループとか、企業さんとかに声を掛けたら手をあげてくれるのではないのでしょうか。本日鈴木委員がいらっしゃらないので、医師会の事は、分からないのですが。学校医さんも入る。学校医さんをお願いする方法もあると思います。

(金子課長)

校医さんと学校の関係がよくわからないので。地域密着の校医さんだと頼むと何とかしてくれそうですが。

(朴部会長)

学校と団体を結ぶコーディネーターがどこになるのかというのがあると思いますが。

(石渡委員)

実施したあとのアンケートはまとめられたのですか。

(朴部会長)

私達は、こないだ頂いただけですよね。

(石渡委員)

生徒の部分を出してもらったと聞きましたが。それをある程度知りたいですね。テーマが「健康を考える」ということで、今年度は、各中学に募集があって応募されてきましたが、それ以外のところになると、なかなか中学校さんから手をあげてこないのではないかと思います。1回の出前講座では、意味が無い。そういうところを考えていくと出前講座の分野がある程度、限定されるのではないかと。場合によっては、小学校にもっていけばもう少し、分野が広がるのではないかと。その辺り検討が必要だと思います。

(朴部会長)

はじめた理由が、中1の予防接種から始まったのですが、中学生は親のいうことを聞かないから直接中学生に声を掛けようというところから入っていったことなので、中学生に特化してもいいのかなと思います。

(金子課長)

小学生からいきなり中学生だと女の子達は思春期を迎える狭間だったり、すれないうちに刷り込むのに効果的な年齢が中1ぐらいだと思います。

(石渡委員)

予防接種という最初のテーマが効果的ではないというか、あまり効果をあげてなかったのではないか。実際に講師の先生方も遠慮して、あまり予防接種の事に触れられなかった。現実的には、実際やった形の方が中学生や学校、先生方に受け入れやすかった。

今後こういう出前講座を続けるのであれば、そこのところも考えていかないと長続きしないのではないか。

(朴部会長)

食育と歯のことで薬物等依存症の3つのテーマは、中学生にいいテーマだなと思いました。

(石渡委員)

講義の内容が素晴らしかった。一般の場合では語られない様な素晴らしいものですね。だから、生徒に受けたんだし、先生方も納得して、又やってほしいということになったんだと思います。

(金子課長)

保健福祉センターの職員が言っていましたが、子どもに話すことが今までなかった。私達の役割としては、地域保健なので、学校は、学校保健なので、役割分担があるみたいです。すごく効果的なことだと思います。資料のつくりも大人に語るのと違うつくりこみをさせてもらったので、勉強になったと言っていました。モデル事業がお互いの為になっていることを認識できたのではないか。これをどう継続していくか。

(朴部会長)

学校保健と地域保健の壁は乗り越えないといけないと思います。続けていくためには、コーディネーターとして力をだしていただけないかなという様な仕組みづくりで提案出来たら、地域福祉の方がうんと言ってくれたら実現するかなと思います。

次に(5)世代間が交流する場の拡充についてですが、カローリングを大師地区や中央地区に広めていくというお話でしたが、ルールの問題や推進の問題がありますので、スポーツ活動振興員のお力をかりながら、区民にカローリングを広めていく。いろんなところでカローリングを実施する様なところを作っていくことを提案しています。

(朴部会長)

区制40周年記念カローリング大会を提案してみたらどうでしょう。区長杯があると広報になって、やろうかなと思うかもしれないですね。でも最終的には、地域の交流の場になることが目標なので。大会をするとそれだけで終わってしまう。大師地区で、カローリングの話はないですか。

(石渡委員)

まだ無いです。これからですね。体育指導員の名称が変わっただけですか。中味も変わるのですか。来年度は、重点地区で。今のカローリングの会長が、大師地区なので。

(朴部会長)

田島地区のこども文化センターの館長さんが大師地区に移動されましたよね。  
とりあえず、5つの議題の振り返りまですすめてきましたが。

(金子課長)

一度家に持ち帰って読んで頂いて、気になる個所があればご指摘ください。今日審議したところは、まとめの部分を入れて、みなさんにお送りします。

(石渡委員)

次回の区民会議に引き継ぎたい申し事項の1つが、組織づくり。区民会議が提案する中味を円滑に実現する為に組織の整備を検討していただきたい。区民会議が単発的に提案しても難しいので、川崎区の地域の組織を使って、やっていくとお互いに共通理解が持てて、実現に向かっていくのではないかと。カローリングの件も旧体育指導員を最大限に使っていく。人ではなく組織というものをしっかりと見据えて、組織を動かすことによって、かなり着実に実現すると考えるので、次回の区民会議でその辺りも検討してほしいと思います。

(金子部会長)

誰が、やっていくの中に本当だったらスポーツ活動振興員が推進していくというのが、カローリングの時には、そういう位置づけにしていると思いますが、皆さんに遠慮があって、そこに押し付けたように思われてしまうということで、明確になっていない。実際に活動しやすい体制をつくるのが重要です。

(朴部会長)

先日、区民会議交流会に行ってきましたが、7区いろいろなやり方があって、区民会議を区民にどう伝えるかというのが、部会になっているところもあれば、どこか自己満足みたいなのところもありました。区民にどれだけわかっているのか。区民会議を区民に知らせる方法を考える必要があると言われていました。

(金子課長)

区民会議は、こんな会議ですというのをもらってもピンとこないと思います。区民会議でこういうことをやるとどう変わりますという実績みたいなものがあつた方がうたえられますよね。区民会議の委員になれば、自分達が考えている事が形になっていくのが効果的だと思います。

(朴部会長)

それでは、これで審議の方は終わりたいと思います。事務局も大変ですが、とりまとめをお願いします。

以上